スライド 1

みなさん、本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

本日の研修では、「ダブルチェックと医療安全」というテーマについて、一緒に考えていきたいと思います。医療現場では、日々たくさんの確認作業が行われていますが、

「確認していたつもりだったのにミスが起きた」という経験をされた方もいらっしゃるかもしれません。

ダブルチェックは“ただ２回見ればよい”という単純なものではありません。

本日は、その意味や仕組み、陥りがちな落とし穴と改善の工夫について、実際の事例を交えながらお話しさせていただきます。

日々の業務に役立つヒントをお持ち帰りいただけるよう、リラックスしながらご参加いただければと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

サンプルページはココまでです。

医療現場では、ダブルチェックが重要な安全対策とされています。

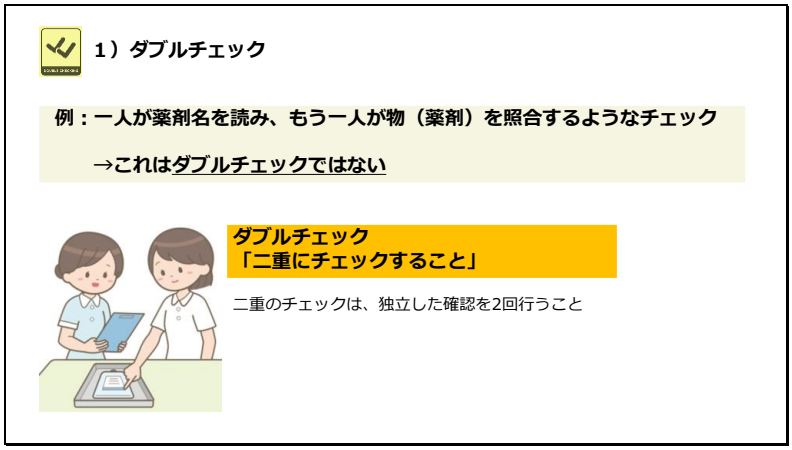
しかし、意外にもその有効性には課題があります。

一方で実務経験上、ダブルチェック（１人・２人）やトリプルチェックの有効性について疑問を感じている方も多いのではないでしょうか。

実は、ダブルチェック（１人・２人）やトリプルチェックの有効性が低くなるのには無意識下の心理が影響していると言われています。

なぜダブルチェック（１人・２人）やトリプルチェックの有効性が低いのか、どうすれば有効なダブルチェックが可能になるのかを確認しましょう。

スライド 2




**1）ダブルチェック**

医療安全対策として、「ダブルチェック」があります。

しかし、ダブルチェックした作業で、インシデントが再発しているのはなぜでしょう。

ダブルチェックは単に二人で確認すれば良いというわけではありません。

二人で独立して行えばダブルチェックだが、二人で同時に行う読み合わせなどのチェックはダブルチェックではありません。

**例：**一人が薬剤名を読み、もう一人が物（薬剤）を照合するようなチェック

→これはダブルチェックではありません

サンプルページはココまでです。

もともとダブルチェックとは「二重にチェックすること」です。

二重のチェックとは、タイミングを変えたり、あるいは人を変えて、独立したチェックを２回行うことです。

二人で行えばダブルチェックではありません。

例えば薬のチェックでは、薬局と病棟でそれぞれ独立して確認を行うことで、より精度の高いダブルチェックが可能になります。。

このようにすることで、エラー率を減らすことができます。

（つまり、より確実にエラーを見つけることができます）

したがって、二人でダブルチェックを行う場合は、それぞれの人が１回づつチェックを行い、二重化しないとダブルチェックをしていることになりません。

二人で同時に行うチェックは、二人で行う「読み合わせ照合」ですので、二人でやってもシングルチェックです。

一人でやるよりは短時間にチェックできるメリットはありますが、エラー率は大して変わりませんので、確実性が増すわけではありません。

むしろ「適当なチェック」になることがしばしばあります。原因は、二人で行っていることの油断です。

二人で行う照合は、ダブルチェックではないので、ペアチェックとか言うのが良いかも知れません。

スライド 3

**2）タイプ別チェック方法**

| タイプ | 方法 | 特徴 |
|---|---|---|
| **1人連続型** | 1人が連続して確認 | 手間がかからないが、見落としやすい |
| **1人時間差型** | 1人が時間を空けて２回確認 | リフレッシュ効果でミスを防ぐ |
| **1人双方向型** | 1人が異なる方向からチェック | 精度が向上する |
| **2人連続型** | 2人が順番に確認 | 最も一般的な方法 |
| **2人連続双方向型** | 2人で異なる順序で確認 | ミス発見率が高まる |
| **2人同時双方向型** | 2人が異なる視点で同時に確認 | **経験が浅い者同士の実施は避ける** |
| **トリプルチェック** | 3人で１回ずつ確認 | 効果はあるが、**リンゲルマン効果** に注意 |
| **クロスチェック** | 異なる視点・手法で確認 | 時間はかかるが視点を変えて精度を向上 |

**2）タイプ別チェック方法**

ダブルチェックには２人で行う場合と１人で行う場合があり、確認方法は多岐に分かれています。3 人で行うトリプルチェックも含め、８つの方法についてみていきましょう。

**※↑上図を順に読み上げてください**

では、これらのチェック方法を詳しく説明していきます。

**サンプルページはココまでです。**

スライド 4

**3）ダブルチェックの方法**

**（1）1 人で行う方法**

まず **1 人連続型**

1 人連続型とは、1 人で連続して 2 度チェックすることを指します。

2 人体制と比較すると正確性には欠けますが、低コストで行うことが可能です。

人員や時間が不足している場合に取られることが少なくありません。

さほどミスの発生率が高くない、単純なチェックの場合に多く用いられます。

しかしながら、同じチェックを 2 回連続で行った場合、流れ作業のように行ってはミスの発見は困難です。

高い精度を求める場合はできるだけこの方法は避けましょう。

サンプルページはココまでです。

次に **1 人時間差型**

1 人時間差型とは、1 人でチェックを行う方法のことを指しますが、1 人連続型と異なるのは、1 回目と 2 回目のチェックの間に小時間のインターバルを設ける点です。

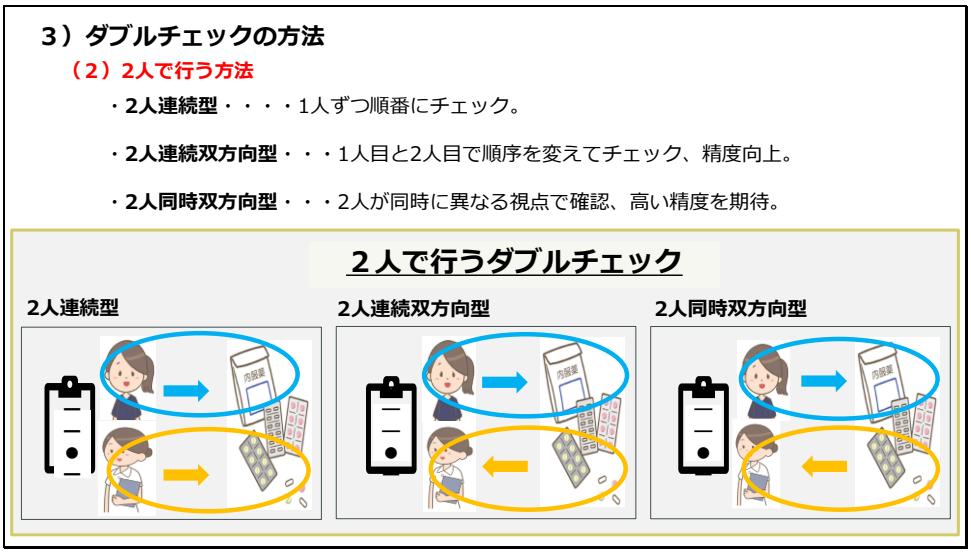
時間を空けて一度リフレッシュすると、1 回目に見落としたミスを 2 回目に発見できる確率が高まります。やむを得ず 2 人体制でチェックできない場合に有効的な方法です。

そして **1 人双方向型**

1 人双方向型とは、1 人で 2 度チェックを行う方法のことを指しますが、他の 1 人型とは異なり 1 度目と 2 度目で異なる方向から目を通す方法です。

例えば、一度目に通常通り上からチェックした場合、次は一番下の項目からさかのぼりながら確認します。1 人時間差型と同程度の効果が期待できます。

スライド 5




**（2）２人で行う方法**

次は **2 人連続型**

2 人連続型とは、2 人で連続し、1 人 1 度ずつチェックする方法のことを指します。

ダブルチェックとしては最も一般的な方法です。

次に **2 人連続双方向型**

2 人連続双方向型とは、2 人で連続してチェックする方法のことをいいますが、2 人連続型と異なり、1 人目と 2 人目で目を通す方法を変更する点がポイントです。

サンプルページはココまでです。

例えば、1 人目が通常通り上から文章を読んでチェックした場合、2 人目は一番下の項目からさかのぼりながら文章を確認します。

目の通し方を変えるため、2 人連続型と比べ精度の高いチェック方法で、ミス発生時のリスクが高い場合に適しています。

ダブルチェック時には、可能であれば 2 人連続双方型を採用しましょう。

そして **2 人同時双方向型**

2 人同時双方向型は人が同時に異なる視点でチェックを行う方法です。

例えば、1 人は誤字脱字や表現の正確性を確認し、もう 1 人は論理の一貫性や内容の整合性をチェックします。

この方法のメリットは、短時間で高精度な確認が可能になることです。

お互いにフィードバックをしながら進めるため、見落としを減らし、質の高い検証ができます。

特に重要な文書やミスが許されない場面では、2 人同時双方向型 の活用が有効です。

スライド 6

**（3）トリプルチェック**

ダブルチェックにさらに 1 人加え、3 人で 1 回ずつチェックする方法のことを指します。

単純にチェックする人が増えるため、ダブルチェック以上にミスの削減が可能だと考える人も多いでしょう。

ただし、人が共同作業を行う際は、1 人当たりの責任が軽くなると無意識のうちに思い込んでしまう現象、通称リンゲルマン効果が生じやすいため注意が必要です。

トリプルチェックの場合もリンゲルマン効果が発生し、「自分以外に 2 人も見ているから大丈夫」と無意識のうちに考え、緊張感が損なわれる場合も少なくありません。

トリプルチェックを行っているのにミスが減らない場合は、リンゲルマン効果の発生を疑いましょう。

サンプルページはココまでです。